

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		作業療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		運動学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	前期 金1・2	教室名	402号室
担 当 教 員		浅野 広太	実務経験とその関連資格	作業療法士として身体障害領域・老年期障害領域・小児／発達障害領域で運動学的評価や運動療法を行ってきた。			
《授業科目における学習内容》							
作業療法において、対象者の作業・課題遂行上の問題を明確化・解釈して原因を推察していく一連の臨床思考過程には、ヒトの身体・運動機能の理解、運動・動作の分析的視点、異常運動を見極める観察眼やその原因を分析する思考力が必要であり、人体の形態・構造・機能に関する運動学的知識が必須となる。この科目では具体的に、肩複合体・上肢帯・肘関節・前腕・手関節・手指を中心に上肢の運動メカニズムについて学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
・ 期末試験(筆記)95%、態度5%で評定。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
■教科書：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法教科書 運動学(中山書店)、PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート[第3版](医歯薬出版)、プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系[第3版](医学書院)、基礎運動学[第6版補訂](医歯薬出版)、イラスト解剖学[第10版](中外医学社)							
《授業外における学習方法》							
基本的に次の通り。 事前学習(20分) 教科書等での予習。 事後学習(40分) 資料整理と復習、運動学ノート学習。							
《履修に当たっての留意点》							
・ 予習のために学習内容にざっと目を通しておくこと。 ・ 学習は予習よりも復習をしっかり行い、不明点がないようにしていくこと。 ・ 体の中の目に見えない部分(構造・走行など)を理解していくこと。 ・ アプリ「ヒューマン・アナトミー・アトラス」の使用推奨。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	①OTの基盤を構成する運動学の基礎を身につける。②関節の分類、運動面・運動軸、関節運動、関節包内運動、筋収縮様式、筋の働きについて説明できる。		教科書 配布資料	【事前学習】シラバスを読んでおく。(20分)	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、運動学導入 骨格概要、身体・運動の位置・方向の表し方、骨運動学・関節運動学に基づく関節運動について学ぶ。			【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)	
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	③肩複合体・上肢帯の構造と機能について説明できる。		教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)	
		各コマにおける授業予定	導入の復習、肩複合体の運動学(1) 肩複合体・上肢帯の構造と機能について学ぶ。			【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)	
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	④肩複合体・上肢帯の関節運動について説明できる。		教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)	
		各コマにおける授業予定	肩複合体の運動学(2) 肩複合体・上肢帯の関節運動について学ぶ。			【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)	
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑤肩複合体・上肢帯の筋の起始・停止と神経支配について説明できる。		教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)	
		各コマにおける授業予定	肩複合体の運動学(3) 肩複合体・上肢帯の筋の起始・停止と神経支配について学ぶ。			【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)	
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑤肩複合体・上肢帯の筋の起始・停止と神経支配について説明できる。⑥肩複合体・上肢帯の関連事項について説明できる。		教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)	
		各コマにおける授業予定	肩複合体の運動学(4) 肩複合体・上肢帯の筋の起始・停止と神経支配、その他の関連事項について学ぶ。			【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)	

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑦肘関節・前腕の構造と機能について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	肘関節・前腕の運動学(1) 肘関節・前腕の構造と機能について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑧肘関節・前腕の関節運動について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	肘関節・前腕の運動学(2) 肘関節・前腕の関節運動について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑨肘関節・前腕の筋の起始・停止と神経支配について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	肘関節・前腕の運動学(3) 肘関節・前腕の筋の起始・停止と神経支配について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑩肘関節・前腕の筋の起始・停止と神経支配について説明できる。⑪肘関節・前腕の関連事項について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	肘関節・前腕の運動学(4) 肘関節・前腕の筋の起始・停止と神経支配、その他の関連事項について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑫手関節・手指の構造と機能について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	手関節・手指の運動学(1) 手関節・手指の構造と機能について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑬手関節・手指の関節運動について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	手関節・手指の運動学(2) 手関節・手指の関節運動について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑭手関節・手指の筋の起始・停止と神経支配について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	手関節・手指の運動学(3) 手関節・手指の筋の起始・停止と神経支配について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	⑮手関節・手指の筋の起始・停止と神経支配について説明できる。⑯手指運動の靱帯・滑膜などの補助組織、手のアーチについて説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	手関節・手指の運動学(4) 手関節・手指の筋の起始・停止と神経支配について学ぶ。 手指運動の靱帯・滑膜などの補助組織、手のアーチについて学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	⑰上肢の末梢神経損傷、手の変形について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書等での予習。(20分)
		各コマにおける授業予定	手関節・手指の運動学(5)、まとめ 上肢の末梢神経損傷、手の変形について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習、運動学ノートでの問題演習を行う。(40分)
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	目標①～⑰	教科書 配布資料	【事前・事後学習】期末試験に向けた総復習を行う。(60分)
		各コマにおける授業予定	まとめ、総復習 期末試験に向けて、これまでの総復習を行う。		